

# 百年の歴史を刻む 野田線発祥の地



道子です。今日は野田線の野田市駅周辺を訪ねてきました。ここは「上花輪歴史館」です。江戸時代に上花輪村の名主で醤油醸造を家業とした高梨本家が、永年にわたり保存してきた歴史的価値の高いお屋敷です。また、国指定名勝にもなっている「高梨家庭園」の自然も見事。赤紫色の「ハナショウブ」の花が印象的でした。(MAPの①)

## 今回の登場人物

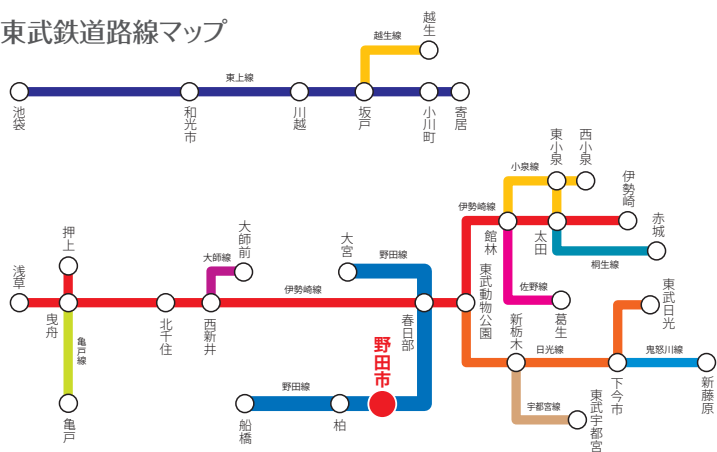


**業平道子**  
あずまの母親。小学生向けの英会話教室を経営する。趣味は園芸。



**業平鉄男**  
あずまの父親。食品会社に勤める。歴史とジャズをこよなく愛するサラマン。

## 東武鉄道路線マップ



# 野田市 (のだし)

東武野田線の始まりは、明治44年。百年前のことです。野田といえは江戸時代から醤油の産地として興隆を極めてきました。それまでは水運で江戸まで往復していた物資を鉄道で運ぶ機運が高まり、野田町と柏間に千葉京葉軽便鉄道が開通。大正10年、鉄道は野田醤油醸造組合が払い下げを受け、民間の鉄道会社となります。その後、徐々に路線を延長していき、昭和5年には大宮と船橋間が開通し、東武野田線の全線開通となったのです。





工場見学で人気のキッコーマンの「もの知りしょうゆ館」。  
そこに今年、江戸川沿いから「御用蔵」が移築  
されてきました。現在もここで、宮内庁にお納め  
する醤油を醸造しているそうです。(MAPの⑥)



北千住から伊勢崎線で春日部駅、ここで野  
田線に乗り換えて、「野田市駅」にやってきました。  
ちなみに、帰りは野田線の流山おおたかの森駅でつくばエクスプレスに乗り換  
えて、北千住に戻ってきましたよ。



少し足を伸ばして江戸川の環に出ました。ど  
こまでも続くようなサイクリングロードが続い  
ています。千葉県側の江戸川左岸のコース(市川  
大橋～関宿城)は、約60kmもあるそうです。  
(MAPの③)



「上花輪歴史館」にやってきました。明和3(1766)年  
建設の門長屋から、昭和6(1931)年建設の母屋  
まで、約3000坪の敷地にさまざまな建物が  
見られます。醤油醸造に使われた道具なども  
ありました。(MAPの④)

## 醤油の香り漂う 町の歴史を探る

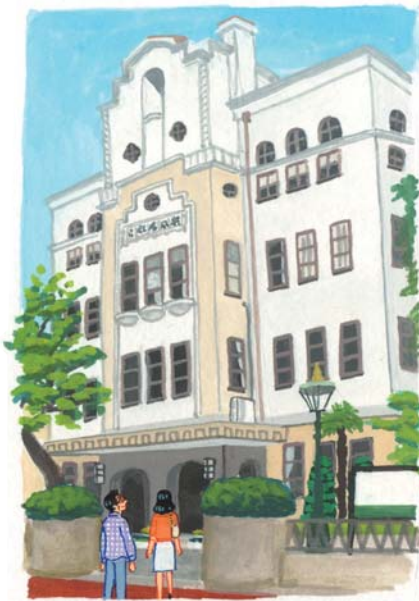
キッコーマンの大きな工場を背景に堂々と建つ野田市駅舎には、醤油産業の歴史をともし歩んできた風格が宿っているようです。しかし、この駅舎はじつは二代目。現駅から有吉町通りを西へ400mほど行ったところに初代の駅(明治44年開設/当時は野田町駅)があり、その跡地には記念碑が立っています。いわば野田線発祥の地。それから今年でちょうど100周年を迎えたわけですが、じつはいま、清水公園く梅郷間の高架化工事が進められており、それに伴って野田市駅と愛宕駅がバリアフリーに対応した新たな時代の高架駅として生まれ変わる予定なのです。

さて、醤油の町・野田を知る一番のオススメは、キッコーマン工場内の「もの知りしょうゆ館」。醤油の醸造過程を映像や展示で見たり、醤油の色・味・香りを体感できる、楽しい醤油のテーマパークです。また、伝統手法を継承する御用蔵も、江戸川畔からこの工場内に移築され、見学することができます(要予約)。

野田の醤油造りは江戸時代から幕府の御用蔵だった高梨・茂木両家を中心に発展。これが後にキッコーマンとなりましたが、両家はその資力を活用して銀行、病院、学校を設立するなど、地域の基盤整備や文化の発展に寄与しています。

上花輪歴史館は、敷地約3000坪の旧高梨家邸宅。江戸時代から昭和初期にかけての貴重な家屋や生活道具、国指定名勝でもある庭園、屋敷林などが見学でき、昔の野田の風景や暮らしぶりを実感することができます。



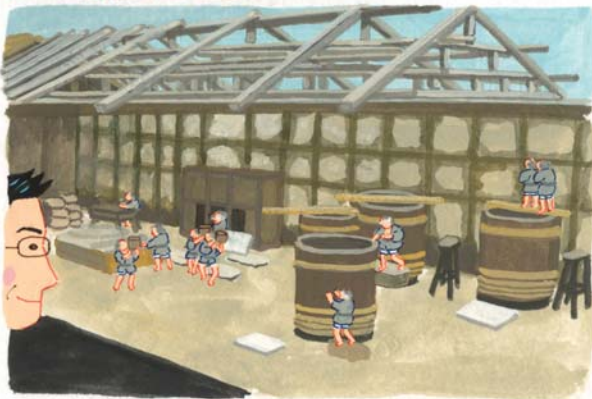


昭和4(1929)年に竣工した「興風会館」です。平成9(1996)年には国の登録有形文化財に指定されました。いまは市内の文化・体育関係の事務局が置かれ最大652人の客席をもつ大講堂や集会室、地下ギャラリーがあるそうです。

(MAPの⑤)



お昼に入った「古奈金」というお蕎麦屋さんで、野菜天つきもり(1000円)をいただきました。店内に置かれた電動石臼で蕎麦粉を碾く。自家製粉のお店。お蕎麦はもちろん、天ぷらもサクサクと美味しかったですよ (MAPの⑥)



こちらは「野田市郷土博物館」です。考古資料や歴史・民俗資料などが展示されていますが、なんといっても醤油関係資料の豊富さは他に例がないそうです。関東醤油番付、野田醤油醸造、絵馬などは、確かにユニークです。

(MAPの④)



予約していた「茂木本家美術館」にやってきました。近世から現代まで、日本美術の傑作の数々をゆったりと鑑賞できました。浮世絵のコレクションも見事です。富士山の絵ばかりを集めた展示室もありましたよ。

(MAPの⑦)

## 町のあちこちに 近代化産業遺産

近世の浮世絵から横山大観や梅原龍三郎などの現代絵画まで、日本の美術を幅広く展示しているのは「茂木本家美術館」(モモア)。白を基調にした館内から広々とした芝生の庭まで、ゆったりと時を過ごせるように予約観覧制になっています。

大正年間に建てられた茂木佐平治家の邸宅は、いまは「市民会館」として開放されています。年数回の最上級のお客様だけが利用できた表門・車寄・大玄関や、茶室などがそのまま保存されています。また、同敷地内には昭和34年にオープンした「野田市郷土博物館」もあります。館内は醤油関係資料が充実。開業100年の野田線発祥の地となった、旧野田町駅構内で醤油を満載した貨物列車の写真も展示されています。

醤油から発展していった野田の歴史を語るものはまだまだあります。昭和4年の竣工当時は千葉県庁に次ぐ大建築といわれたロマネスク調の興風会館。大正15年に建てられた旧野田商誘銀行の「商誘」は「醤油」に因んだ名。「れんが蔵」はかつての醤油の醸造工場。昔ながらの船問屋の面影を残す上河岸。これらも国登録有形文化財や近代化産業遺産に指定されています。

そして江戸川の流れ。これもまた醤油の町・野田の発展の礎となった風景なのです。

いっぽう、野田市駅の東側で賑わっているのは「モリのゆうえんち」。ほのぼのとした小さな遊園地ですが、高さ65mの大観覧車からは富士山まで見渡せます。じつは野田市から見る富士山は「関東の富士見百景」に選定されているのです。



